

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 1 2 月調査結果 - -

(平成 1 7 年 1 2 月 2 7 日)

調査期間：平成 1 7 年 1 2 月 1 3 日 ~ 1 9 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 8 0 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 7 製造業 6 2 3 卸売業 2 3 2
小売業 7 3 9 サービス業 6 0 9

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

依然原油高など不安要因漂うも、業況D Iは3カ月連続でマイナス幅縮小

12月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（29.0）よりマイナス幅が3.9ポイント縮小して25.1となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

業況D Iは、平成14年1月を谷とする今回の景気拡大局面において、平成16年7月の水準（25.7）を超え、最も高い数値を示した。

業種別の業況D Iは、建設でマイナス幅が拡大したものの、他の4業種で縮小したため、全産業合計の業況D Iのマイナス幅も縮小した。業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰等による景況の停滞感、客数の減少や客単価の下落など消費の低迷、先行き不安を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「年明けに市の配水管工事の発注がある見込みであり、受注できれば売上高の増加が期待できる」（管工事）との声がある一方、「公共工事が増加する可能性は極めて低く、民間工事件数も横ばいであり、見通しは暗く厳しい」（一般工事）、「土木工事のうち、特に県の発注が減少している」（建築工事）との声が寄せられている。

【製造業】では、「着実に業績を伸ばしており、不況を耐え抜いた力が発揮されて経営体質改善が一層進んでいる」（金属加工機械製造）との声がある一方、「円安による原料の仕入コスト上昇と「耐震構造計画書偽造問題」による建築業界全体への不信感の増幅に苦慮している」（製材木製品製造）といった声や、「原油価格の高騰で仕入コストが上昇している分、利益が減少している」（紙製造）と、引き続き製造コスト上昇の影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「本格的な冬に入り、季節商品の売上に期待している」（食料・飲料卸売）との声がある一方、「建材関連は売上が少なく在庫が増え始めており、価格の下落が心配される」（鉱物金属材料卸売）、「紙関係の商品は例年より荷動きが若干活発になっているが、繊維関係は依然として低調のまま推移している」（衣服・日用品卸売）との声が寄せられている。

【小売業】では、「景気の上向き傾向を反映してか、昨年より高額商品の売れ行きが良い」（百貨店）との声がある一方、「来店者数が激減しており、年末の商戦は盛り上がり欠ける」（その他の小売）、「年末商戦における来店者数は減少傾向にあり、売上も下降気味」（商店街）といった声が寄せられている。

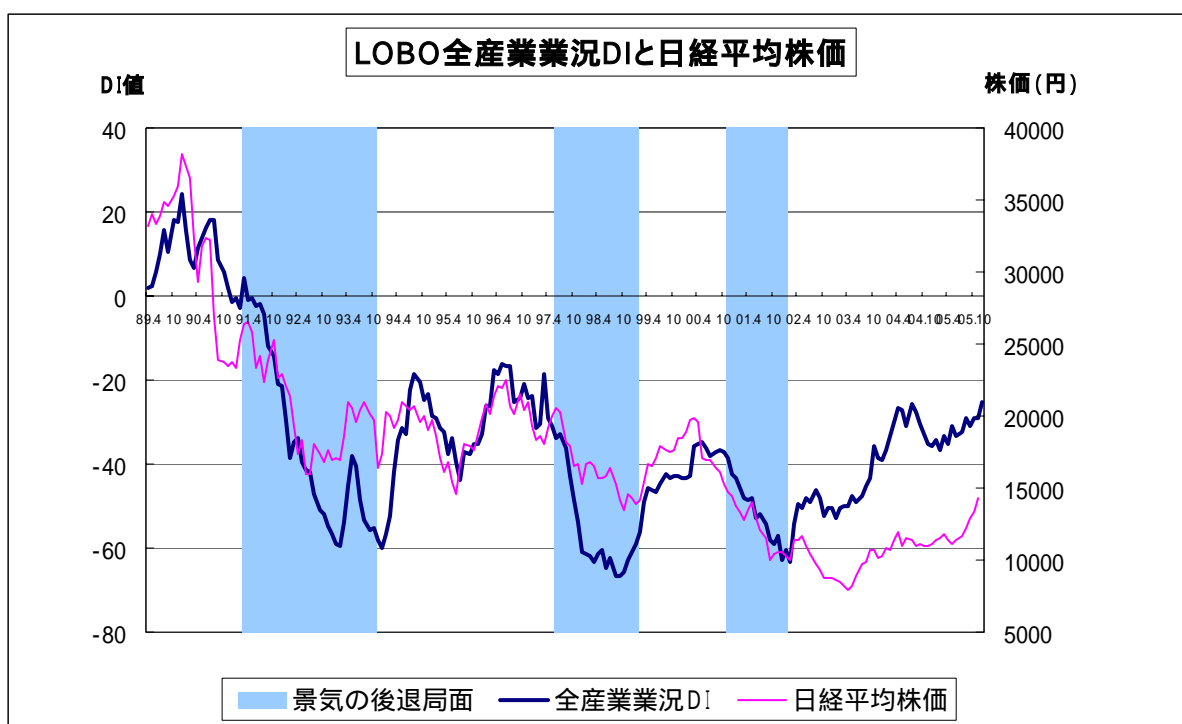
【サービス業】では、「当業界にも多少ではあるが、好況感が出てきた」（すし店）との声がある一方、「周辺の温泉地は来客数が減り、多くの旅館は厳しい状況に立たされている」（旅館）、「昨年以上に忘年会・新年会の予約が少なく先行きは暗い」（食堂、レストラン）といった声や、「軽油単価はようやく下降傾向に転じたが、タイヤなど関連商品の高騰は続いており、厳しい状況に変わりはない」（その他サービス）と原油高の影響を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、サービスで拡大したものの、他の3業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は4.2ポイント縮小して18.9となり、2カ月連続で縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、小売で拡大したものの、他の3業種では縮小したため、全産業合計の採算D I は2.0ポイント縮小して26.5となり、2カ月連続で縮小した。

向こう3カ月(1月~3月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が23.1と、昨年同時期の先行き見通し(35.4)に比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰等による景況の停滞感、客数の減少や客単価の下落など消費の低迷、先行き不安を訴えるコメントが多く見られた。



【業況についての判断】

12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（29.0）よりマイナス幅が3.9ポイント縮小して25.1となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

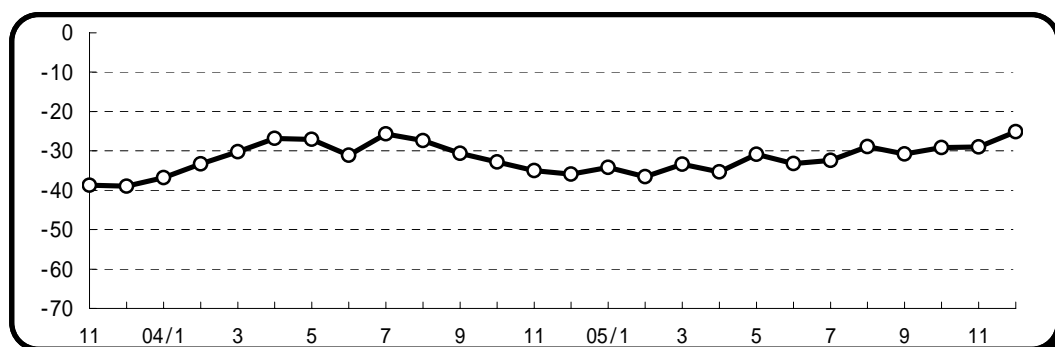
向こう3カ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が23.1と、昨年同時期の先行き見通し（35.4）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	17年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	32.4	28.9	30.8	29.2	29.0	25.1	23.1 (35.4)
建設	43.2	37.9	41.0	37.6	37.5	38.1	35.3 (46.7)
製造	21.2	18.5	21.2	18.0	19.5	14.9	16.6 (27.0)
卸売	38.5	35.3	29.3	41.5	32.5	31.9	28.0 (31.4)
小売	33.9	31.2	33.7	32.6	28.0	23.2	20.8 (40.0)
サービス	33.1	29.0	31.3	26.7	33.3	27.1	22.9 (33.0)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年12月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

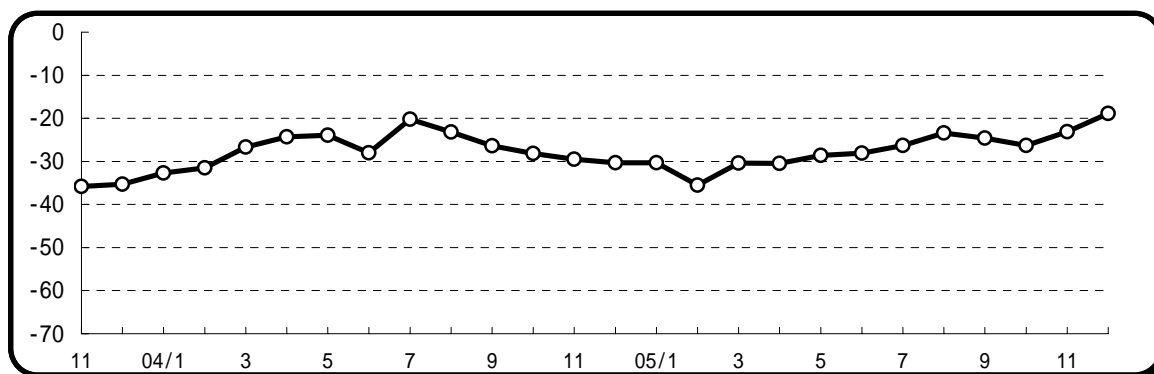
売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、サービスで拡大したものの、他の3業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は4.2ポイント縮小して 18.9となり、2カ月連続で縮小した。

向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 20.2と、昨年同時期の先行き見通し(32.2)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	26.3	23.4	24.6	26.3	23.1	18.9	20.2 (32.2)
建設	37.0	32.2	32.5	34.3	29.2	30.8	36.4 (41.0)
製造	9.6	9.3	6.7	5.8	11.8	1.6	10.4 (21.4)
卸売	36.7	37.1	32.5	40.9	35.1	33.7	28.0 (33.5)
小売	31.1	26.9	30.3	35.4	25.2	17.7	17.6 (37.1)
サービス	27.2	23.5	28.2	26.4	24.5	25.2	20.2 (31.7)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

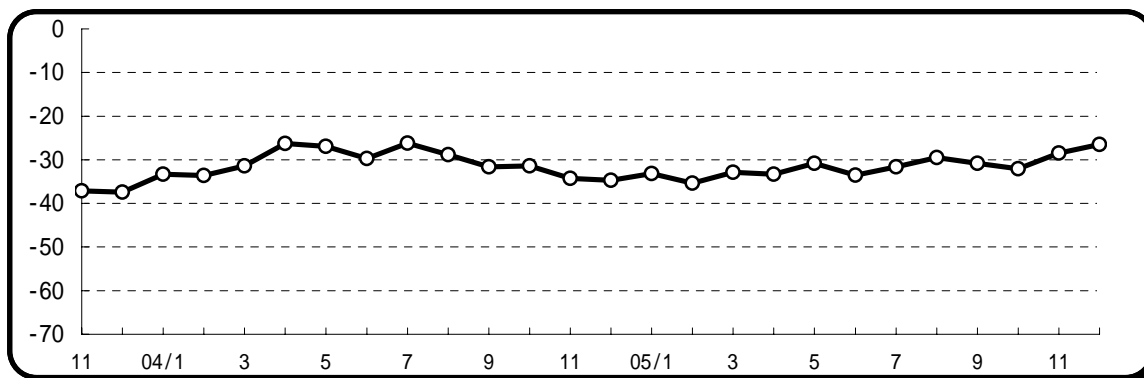
採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、小売で拡大したものの、他の3業種では縮小したため、全産業合計の採算D Iは2.0ポイント縮小して26.5となり、2カ月連続で縮小した。

向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が24.0と、昨年同時期の先行き見通し(33.2)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比) の推移

	17年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	31.6	29.5	30.8	32.1	28.5	26.5	24.0 (33.2)
建設	47.3	42.8	42.6	43.1	41.9	43.1	34.9 (43.2)
製造	27.5	24.6	23.5	21.6	24.1	18.9	19.2 (28.6)
卸売	29.6	30.6	33.1	41.5	27.9	27.6	24.2 (24.5)
小売	27.1	25.7	29.8	33.3	22.5	22.8	21.7 (36.3)
サービス	32.4	30.7	31.3	31.3	31.6	27.9	24.9 (31.2)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	20.7	19.2	19.6	19.0	17.3	18.6	17.4 (25.2)
建設	37.9	31.2	30.8	29.8	27.6	31.3	29.9 (37.1)
製造	17.8	17.7	17.5	15.5	15.1	13.9	14.0 (25.0)
卸売	19.6	13.3	17.7	20.9	12.3	17.7	13.2 (18.1)
小売	16.4	14.5	16.2	16.6	14.8	15.1	13.7 (21.6)
サービス	16.3	20.1	18.3	17.2	17.5	19.1	19.1 (24.5)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造で悪化超感が弱まったものの、他の4業種で強まり、全産業合計でも3カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】全業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	17.3	17.2	19.5	19.0	17.7	18.5	16.3 (15.6)
建設	27.3	23.3	28.4	31.0	30.6	24.0	22.3 (23.0)
製造	31.0	33.5	35.0	36.3	34.6	35.7	26.1 (25.3)
卸売	16.0	12.9	14.7	13.2	1.3	8.0	11.2 (19.0)
小売	5.1	4.8	8.4	4.9	5.1	6.5	9.1 (5.9)
サービス	11.6	12.6	12.2	12.2	12.4	15.2	12.6 (10.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設で上昇超感が弱まったものの、他の4業種で強まったため、全産業合計でも3カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】建設、卸売で上昇超感が弱まったものの、他の3業種で強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	17年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	4.4	3.7	3.8	3.8	1.8	1.6	4.0 (9.9)
建設	20.2	18.6	17.4	19.0	16.9	14.7	16.5 (22.0)
製造	3.5	5.8	5.1	4.5	3.4	0.5	6.7 (12.4)
卸売	5.3	3.6	3.8	5.7	4.5	4.3	7.2 (10.2)
小売	0.2	3.0	3.5	2.8	6.5	1.5	0.7 (5.1)
サービス	0.5	0.2	2.1	0.2	1.2	3.2	2.9 (4.1)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】小売で不足超感が弱まったものの、サービスで不足超感が強まり、他の3業種でも過剰超感が弱まったため、全産業合計でも2カ月連続で過剰超感が若干弱まった。

【先行き見通し D I】小売、サービスで不足超感に転じ、他の3業種でも過剰超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年12月の景気キーワード】

回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声も寄せられている。「業況は依然として厳しいが、年度後半の受注増加を期待したい」(一宮・一般工事)、「建設機械や産業機械関係が好調であり、大手の下請企業でも設備投資が活発である」(金沢・他金属製品製造)、「業況は好転しており、来月もこの流れが続くと考えている」(下関・水産食料品製造)との声のほか、「顧客増加で売上が安定的に確保しており、消費者の購買意欲の高まりを感じる」(焼津・農畜産水産物卸)、「クリスマスギフトの需要が発生する時期が例年よりも早く、消費マインドが上向きつつある」(中津川・商店街)と消費回復への動きを指摘する声も寄せられている。また、「忘年会シーズンに入り、曜日により来店者数に差があるものの、全体としては好調だと思う」(伊那・食堂・レストラン)、「忘年会シーズンの予約数・来店者数は昨年より少し増加傾向にある」(檀原・旅館)と、年末をむかえて売上が好調とするコメントも寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「競争激化と仕入コスト上昇により採算が好転せず、来年初めの受注量も少ない」(帯広・一般工事)、「景気は回復基調にあるというが、当業界では国内需要が伸び悩み、依然として厳しい状態が続いている」(静岡・家具製造)、「業況は回復しておらず、仕入コストも上昇しており、今後も採算面で厳しい状況が続くと思われる」(赤穂・金属加工機械製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「県外から進出した店舗が増えており、他の地域から商品を仕入れるために売上が減少している」(川之江・食料・飲料卸売)、「年末を迎えても経営環境は改善せず、商店街全体の活力が減退している」(館山・商店街)、「耐震構造計画書偽造問題」による建物使用禁止が管理業務中止につながり、悪影響はビルメンテナンス業界にも波及している」(京都・建物サービス)と、厳しい業況を訴えるコメントが寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇

また、引き続き原油価格の高騰等による仕入コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「ビニール製の原材料等の仕入コスト上昇を受け、無駄な使用を抑制するよう心がけている」(鎌倉・塗装工事)、「原材料や原油の価格高騰により仕入・輸送コストが上昇するも、販売価格への転嫁は困難」(名古屋・非鉄素形材製造)、「石油製品、電力、LPガスの価格が上昇しており、原材料の鋼板や銅線の仕入価格も来年春に上がる予定」(伊万里・産業用電気機械製造)という声が寄せられている。また、卸売、サービスからは「メーカーから仕入単価の値上げ要請があり、今は応じていないが、近い将来に受け入れることになるだろう」(四日市・その他卸売)との声のほか、「原油価格が高騰するも価格転嫁できず、各社ともに四苦八苦している」(水戸・その他サービス)と、コスト上昇分を価格転嫁できないというコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
17年10月	悪化への懸念	回復への動き	仕入・輸送コスト上昇
11月	悪化への懸念	回復への動き	仕入・輸送コスト上昇
12月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは3カ月ぶり、売上・採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「年明けに市の配水管工事の発注がある見込みであり、受注できれば売上高の増加が期待できる」(管工事)との声がある一方、「公共工事が増加する可能性は極めて低く、民間工事件数も横ばいであり、見通しは暗く厳しい」(一般工事)「公共工事の受注金額が下がるとともに民間工事も競争が激化しており、状況は依然として厳しい」(建築工事)「土木工事のうち、特に県の発注が減少している」(建築工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D I全てにおいて2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「着実に業績を伸ばしており、不況を耐え抜いた力が発揮されて経営体質改善が一層進んでいる」(金属加工機械製造)「石灰の出荷量は、鉄鋼業界向けと化学業界向けを中心に前年と比較して増加している」(他の窯業・土石製造)との声がある一方、「円安による原料の仕入コスト上昇と「耐震構造計画書偽造問題」による建築業界全体への不信感の増幅に苦慮している」(製材木製品製造)、「景気回復の実感は乏しく、好調だった自動車関係の受注も一服し、先行きに期待が持てない」(ブリキ缶等製造)「原油価格の高騰で仕入コストが上昇している分、利益が減少している」(紙製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算D I全てにおいて2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「本格的な冬に入り、季節商品の売上に期待している」(食料・飲料卸売)「金融機関からの借り入れのハードルが以前より低くなった」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「建材関連は売上が少なく在庫が増え始めており、価格の下落が心配される」(鉱物金属材料卸売)「紙関係の商品は例年より荷動きが若干活発になっているが、繊維関係は依然として低調のまま推移している」(衣服・日用品卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月ぶりに拡大した。「景気の上向き傾向を反映してか、昨年より高額商品の売れ行きが良い」(百貨店)「売上が伸びている店が少しずつ増え始めている」(商店街)との声がある一方、「来店者数が激減しており、年末の商戦は盛り上がり欠ける」(その他の小売)「年末商戦における来店者数は減少傾向にあり、売上も下降気味」(商店街)「衣類の売上が比較的好調だが、依然として厳しい状況に変化は見られない」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは3カ月ぶりに拡大した。「当業界にも多少ではあるが、好況感が出てきた」(すし店)、「これからの忘年会シーズンに期待が持てる」(食堂、レストラン)との声がある一方、「周辺の温泉地は来客数が減り、多くの旅館は厳しい状況に立たされている」(旅館)「昨年以上に忘年会・新年会の予約が少なく先行きは暗い」(食堂、レストラン)「石油製品の値上げが拡大傾向にあり、依然として厳しい状態が続いている」(自動車整備)「軽油単価はようやく下降傾向に転じたが、タイヤなど関連商品の高騰は続いており、厳しい状況に変わりはない」(その他サービス)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、中国、四国でマイナス幅が拡大したが、他の6ブロックで縮小したため、全ブロック合計でも3カ月連続で縮小した。

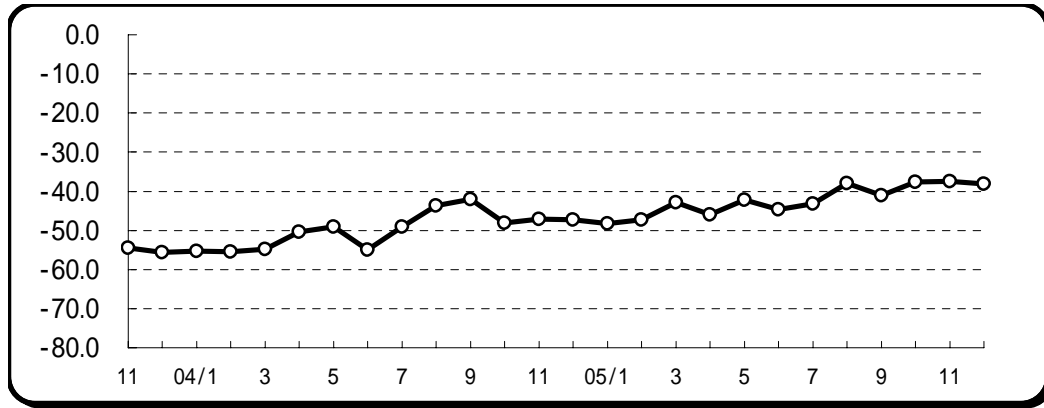
ブロック別の向こう3カ月（1月～3月）の業況の先行き見通しは、全てのブロックで昨年同時期と比べて縮小している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

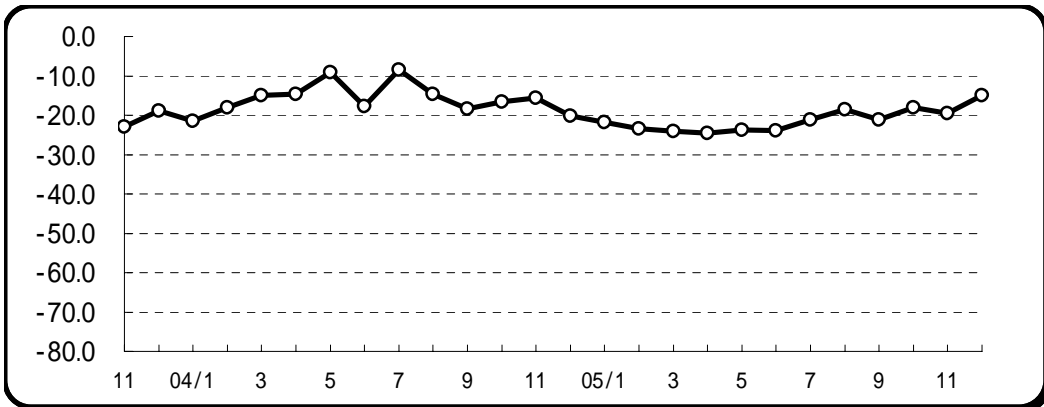
	17年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全 国	32.4	28.9	30.8	29.2	29.0	25.1	23.1 (35.4)
北海道	31.4	32.3	36.0	39.3	30.0	34.9	32.1 (43.8)
東 北	37.1	30.7	30.9	25.0	28.9	26.4	27.1 (45.8)
北陸信越	25.1	26.2	24.1	23.6	23.7	19.0	21.4 (38.8)
関 東	29.5	29.0	28.5	27.3	26.0	21.9	18.7 (28.1)
東 海	30.2	23.8	27.8	25.4	29.5	17.9	17.9 (29.0)
近 畿	40.7	31.7	28.9	31.2	32.4	24.7	24.7 (37.0)
中 国	32.9	29.2	37.2	32.9	26.6	31.8	26.4 (37.0)
四 国	37.4	33.8	40.1	30.2	34.1	35.2	33.1 (39.5)
九 州	29.4	24.4	32.8	33.3	32.8	26.5	19.1 (34.1)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

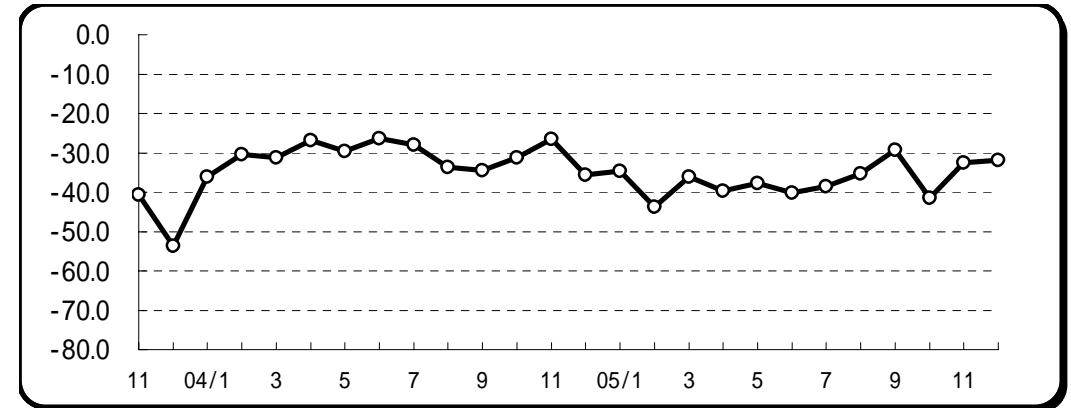
建設業



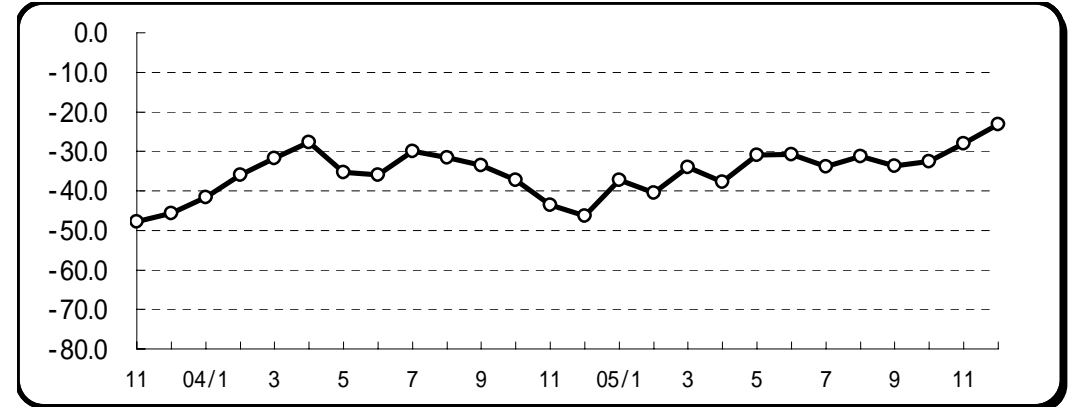
製造業



卸売業



小売業



サービス業

